

標本棚 私とネズミ

家ネズミと私
日本環境衛生センター
環境生物部 専門調査役
伊藤 靖忠

私の場合、一九七〇年三月に大学は出たけれど、行き先が決まっていなかった。京都市衛生研究所の前田理先生のところでアルバイトをしていた。その当時、私は自治体の職員になつて、家ネズミの生息調査ができればいいなと夢想していた。丁度その頃、日本環境衛生センターで、ネズミをやる人を探しているとの情報が前田先生の耳に入り、先生のお骨折りで、同年九月に同センターの職員になることができた。



鶏舎で飼育するタイプのドブネズミ

同センターでの私の仕事は、マウス・ラットに対する経口投与を中心とした急性毒性試験、新規殺鼠剤の原体と製剤のドブネズミ・クマネズミに対する室内効力試験、および製剤の実地効力試験が主なものであった。室内試験で使用するクマネズミを手するのために、もう三十年以上も前に、東京の飲食店街でアペックス産業の元木貢さんと徹夜で粘着トラップに捕獲されたクマネズミを回収したこともあった。

餌はさつま揚げで、仕掛けてある作業中にパチンと音がして捕まるほど沢山のドブネズミを捕獲することができた。ハツカネズミについての思い出としては、やはり三十年位前、自宅でハツカを飼育していたが、ある時、家の中で逃げられてしまった。二週間経っても死んだ様子がない

ので、シャーマン・トラップの中にチーズを入れて仕掛けたところ、一晩で捕獲することができたのは嬉しかった。昨年の九月から十一月にかけて、四回程、被災地の福島県内の一般住宅で家ネズミの生息調査に従事することができた。この歳になって、若い頃に夢想していたことが実現するとは、誠に幸運であった。

私と布アート

洞内 悦子

布アートとの出会いは、友人の作品発表会でした。案内状を頂いて、それって何？見たら、布を貼り重ねて、花や動物、風景等を立体的に見せているのに驚きました。最近、世を賑わしている3Dの映像を見るような感じです。常々、我が家は殺風景と思っていたので、もしこれが作れたら、花の壁掛けなんかで、少しは華やかにするのではないかと教室に通うことになりました。



羽音

【作り方】

生地を選ぶところから制作が始まります。同じプリント柄の布を七〜八枚用意。多く重ねてボリューム感を出す部分、少なくてすむ部分を考えながら、生地をパーツのように切っていきます。この布を切る作業が初心者にとって難しいとされていて、うっかりすると布不足が生じます。切り取ったパーツ状の布を、シリコン糊で凹凸をつけながら貼り重ね、立体感を出していきます。



生地や柄の選び方に個人の感性が出てきますし、また、切り方、重ね方によって、同じ生地、同じ柄を使っても雰囲気の異なる作品・作り手の個性のある作品となります。それだけに上手下手は別にして、出来上がった作品には愛着を感じます。額縁に入れて絵画として飾ったり、リモコンラックやテッシュペーパーボックス、鏡の縁など、身の周りの小物にアレンジして楽しむことができます。今は気に入った柄の生地を巡り合うことを願う日々です。

「こんな日が訪れようとはー！」

榊横浜サンセルフ 代表取締役 山口健次郎

昭和二十九年、茅ヶ崎市少年野球大会で優勝した。そのご褒美に、後樂園球場での巨人・阪神戦の観戦をプレゼントされた。初めての後樂園球場に、全員忘れられない思い出をつくり、六十年経った現在でも、仲間と優勝戦の思い出とともに、初めての後樂園での話を花を咲かせている。

私は、小・中・高と野球漬けの日々を送り、甲子園を目指した時期も

あった。その後、現在に至るまで野球の主力選手として野球を楽しむ、六十歳を過ぎた今は、還暦野球のチーム主将としてプレーしている。私の所属チームは、創部三十五年の歴史あるチーム。そこに葉山町初の学童チームが四年前に誕生した。きっかけは、元読売巨人軍・宮本和知氏が葉山町に転居してきたことである。そこで葉山町に学童チームを創部し、自ら総監督に就任した。そこに私の孫の湧大が入団して四年、やっとポジションを獲得するまでになった。一番キャッチャーとして、動けるうちに一度は対戦してみた



左が筆者。右が孫の湧大君。

平成一五年、台風で延期された試合は、十一月四日(祝)に行われた。九時、葉山町長の始球式が始まり、町の広報やロータリークラブの宣伝により、多くはないが観客もいる。平均年齢六十九・八歳の選抜チームと、小学校五、六年生の学童チームとの対戦。我がチームには、輝かしい球磨を持った選手も何人かいる。しかしスポーツは残酷なもの、そんなものは試合中、役に立つことは少ない。とてもスピードについていけない。孫からも、「僕たち星に出れば三塁打だね」と、きつい一言。

試合結果は悲惨だったが、こんな夢のような日が訪れようとは。実に楽しく充実した、思い出深い一日であった。小学校五年生の彼にとって、忘れられない一日になってくれれば嬉しい。私の五年生の時のように。

会員図鑑



牧野 祐一
アペックス産業(株)
業務課



渋井 紀子
アペックス産業(株)
総務課

奥さんと三人の男の子の五人家族。外見は酒豪に見えるが、実は下戸。楽しみは、休日に車で日帰りスノーシューを巡る。これまで五十箇所ほどを制覇。ただし、家族とは別行動のため、家族は爆発寸前。仕事柄、床下を潜る作業が多い。最近、最近の柔軟体操で体を柔らかくすることも心掛けています。それでも防げないのが怪我。つい最近も床下で無理な体勢をとってしまい、肩を脱臼してしまいました。

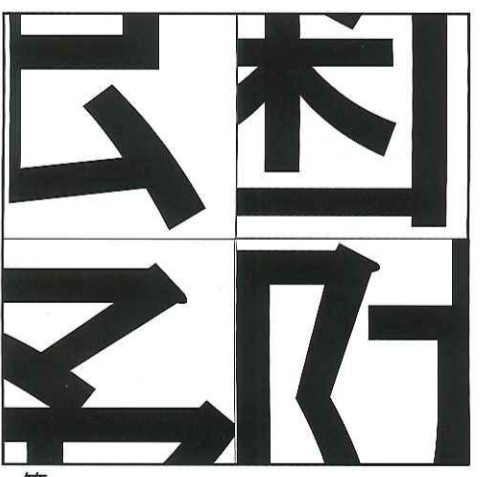
今年二月十六日付けで入社した経理担当の新人社員。新人といっても、実はこれまでさまざまな職場で、多彩に経理の仕事を経験してきた。頼りになるキャリア。二人の女子大生の娘さんを持つ。いわばスノーシューお母さん。楽しみは、たまに行く映画と疲れを癒す温泉旅行。美声の持ち主で、NHKのアナウンサーも顔負けという声も。ただし、NHKでの経理勤務の経験はない。

触覚 BOOK

ことわざ慣用句辞典
現在、慣用句を扱った「ことわざ辞典」は、旺文社をはじめ、学研、三省堂、現代言語研究所などから、13冊が出版されています。今号では、約1,250句あるとされる慣用句を集めてみました。皆さんがご持ちの辞典には、どんな虫の慣用句が載っていますか。

- ☆虫で始まる慣用句
虫がいい。(あつかましい)
虫が知らせる。(予感がする)
虫が好かない。(好きになれない)
虫がつく。(好ましくない)
虫酸が走る。(嫌でたまらない)
虫の息。(今にも息が絶えそう)
虫の居所が悪い。(機嫌が悪い)
虫も殺さない。(優しく大人しい)
虫を思う。(寄生虫で腹痛を起こす)
虫が取り上(のぼ)す。(腹痛を起こす)
虫が納まる。(立腹が直る)
虫が合方。(陣舞が起る)
虫を殺す。(歌舞伎の音曲の一つ)
虫を摩(さ)す。(虫を殺すと同じ)
虫が起る。(子供が疳(かん)の強い状態になる)
虫送り。(稲の害虫駆除の呪術行事)
虫時雨。(時雨の音に例えた虫の鳴き声)

【問題】
四字熟語が重なっています。推理して何という四字熟語かを答えて下さい。



答

◆応募規定
ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。〒105-0014 東京都港区芝2の23の4 アペックス産業(株)内 APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切は平成26年7月31日(木) (当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。
★前号の正解者と当選者(順不同)
正解は『6』でした。
当選者:板倉英一、高橋慶、高橋朋子の3名様です。